

2009年7月7日(火)

### タミフル耐性新型インフルエンザ 3 例目

6月中旬、16歳女性がサンフランシスコから香港に旅行した際、香港空港で発熱検知機により発熱していることが判り、その後隔離。検査の結果タミフル耐性インフルエンザであることが判明。投薬せずに回復したという。発症早期より隔離されたため、感染が伝播した可能性は低い。

彼女はタミフルを使用していなかったにもかかわらずタミフル耐性インフルエンザを発症したことになる。このことは、治療にせよ予防にせよタミフルを使用した別の患者(おそらくはサンフランシスコで感染したのであろうが)中にタミフル耐性インフルエンザが発生し、これが直接ないしは複数の感染者を経て感染したと考えるのが適切であろう。

世界でタミフル耐性インフルエンザを発症したのは3名と考えるよりは、我々は氷山の一角しかみていないと考えるべき。

今後日本(政府ないしは自治体)の対応として

1. インフルエンザ治療薬(タミフル、リレンザ)は治療中に限る:在庫を無限に確保できないという理由もある。
2. リレンザの備蓄を進める。
3. 新薬の市場早期投入
4. 秋以降インフルエンザ治療薬(タミフル、リレンザ)に9割以上が耐性を示した場合の地域対策を考える。